

萬福寺だより

第23号

HP <http://www.manpukuji.or.jp>

馬込から気持ちのよい風が吹いてくる

発行／曹洞宗 萬福寺護持会

2015年冬号／no.23／平成27年12月1日発行

磨墨塚（南馬込三丁目）で「ご供養 萬福寺境内で「するすみ祭」を開催しました



11月8日（日）、南馬込三丁目の磨墨塚で安本利正ご住職様式師のもとご供養が行われました。磨墨塚は昨年12月、金子家から萬福寺に寄進され、その後改修工事を行っていました。このほど完成。寄贈者金子家はじめ萬福寺護持会、近隣の方々、梶原殿関係者が多数参加して執り行われました。

「磨墨」は、当山開基の梶原景時の子、景季が源頼朝から賜った名馬で、以来、日本の名馬の尊称となっています（詳細は既報「萬福寺だより」21号、22号参照）。この名前が付いた塚を今日まで守り伝えてきたのは、梶原家はじめ馬込周辺の方々の祖先を敬う信仰の深さと思われまふ。

「ご供養後、境内では「するすみ祭」チャリティイベントが行われ、開会式で安本ご住職様から、次のようなご挨拶がありました。

「金子家の皆様が話し合っ、塚を今後永久に保存していくには寺に寄進するのが一番いいだろうと結論を出され、当山に申し出られました。萬福寺もこれをお受けし、今後永久にこの経緯と磨墨塚を伝えていく決意を新たにしました。本日は大勢お集まりいただき、儀式とともにイベントを企画しました。ゆつくり楽しんでください。」

本堂前には紅葉台木曾馬牧場（河口湖）のポニーと和種馬各1頭が登場、子ども限定のポニー試乗会や和種馬との記念撮影が行われました。また、護持会役員、梶原殿運営スタッフ手作りのお餅や豚汁が販売され、売上金の一部は大田区の社会福祉に寄付されました。



つぎたて餅と熱々の豚汁を賞味



陣羽織姿で馬と記念撮影



ポニーに乗って境内を散歩

「誕生寺ご参拝」と「鴨川館で昼食」

日帰りバス研修旅行を開催

晴天の10月7日（水）、萬福寺護持会は千葉県大本山小湊・誕生寺（日蓮宗）ご参拝と鴨川館での昼食会をかねた日帰り研修旅行を行いました。萬福寺所蔵の鬼子母神像は、日蓮聖人が当山ご宿泊の折り寄進されたものと伝えられており、今回企画されました（日蓮聖人との詳しい縁については、『萬福寺だより』2011年冬号／No.10をご参照ください）。

参加68名は2台のバスに分乗、定刻の7時30分に安本利正ご住職様のお見送りを受けて馬込・萬福寺山門下を出発。アクアラインを通って東京湾を横断、千葉県木更津から安房スカイラインを通って鴨川へ。折からの強風に波立つ太平洋を左手に眺めながら海岸沿いを小湊・誕生寺へと向かいました。

総門下に広がる鯛の浦（内浦湾）は打って変わって波一つない穏やかな表情を見せるなか、一行は誕生寺に到着。「日蓮大聖人御降誕800年に向かつての祈り」平成33年（2021年）2月16日」の幕が掲げられた仁王門をくぐって祖師堂へ。ここで記念撮影を行い、祖師堂を参拝。その後、同寺の至宝を集めた宝物館を見学しました。



祖師堂前での記念撮影 1号車



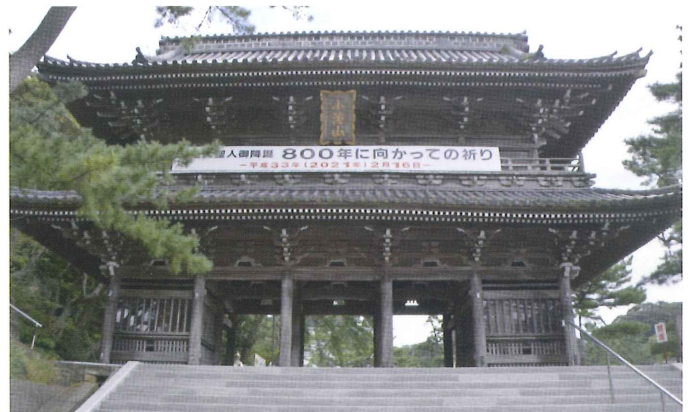
祖師堂前での記念撮影 2号車



老舗旅館・鴨川館での昼食会



お土産店で
買い物を
楽しむ



誕生寺仁王門

萬福寺の行事はどなたでも参加できます。



東京マンドリンアンサンブル・クインテットの皆様

秋彼岸会法要

平成27年9月23日(水・祝)

心の音楽・

マンドリンアンサンブル

秋

晴れの日となった9月23日、境内では昨年に引き続き萬福寺護持会による「芋煮会」が行われ、彼岸の墓参に訪れた参詣者に振る舞われました。

本堂では午後1時から「心の音楽」東京マンドリンアンサンブル・クインテット(田中早苗様を中心に東京マンドリンアンサンブルのピックアップメンバーで構成)によるマンドリン演奏が行われ、クラシックから歌謡曲・童謡まで、哀愁を帯びたマンドリンの調べが本堂いっぱいに響き渡りました。

続いて彼岸会法要が安本利正ご住職様



芋煮会

式師のもと厳かに営まれ、僧侶の皆様による読経のなか、参詣者全員で御焼香いたしました。

なお、春・秋の彼岸会法要では毎回、皆様に楽しんで頂ける

「落語」や「心の音楽」などを企画しております。お誘い合わせのうえ、お気軽にご参詣ください。

新盆供養・孟蘭盆会法要

平成27年7月13日(月)

自分を見つめ直す機会

お盆の中、7月13日正午から本堂で新盆供養、続いて午後1時から法話、午後2時から孟蘭盆会法要が執り行われました。

新盆供養では今年新盆を迎えた約200名の御親族が出席し、安本利正ご住職始め10名の僧侶の御供養をいただき、故人への思いを新たにしました。

曹洞宗関東東管区教化センター主監、茨城県笠間市・高寅寺ご住職、北条和之老師は法話で「仏教では、人は死んだら全てがなくなる、生きている間に好きなことをすべきた、供養などしなくてもよいという『断見』と、人は亡くなっても靈魂として存在していることを信じきって、

今の生活をないがしろにする『常見』の、どちらの考え方もいましめています。どちらにもとらわれることなく、自分の生活を正しく見つめていくことが大切です。その機会が、このお盆です」と話されました。

大施餓鬼会法要

平成27年7月23日(木)

40名の僧侶による法要

大施餓鬼法要に先立って午後1時から、駒澤大学名誉教授・田上太秀講師による法話が行われました。法話では「観音菩薩様の首飾りは真珠のネックレスです。これは、すべての煩惱から離れた、清浄な姿であることを表し、どんな願いもかなえます」とお話をいただきました。

その後行われた法要では、本堂一杯に参列者が見守る中、40名の僧侶による莊嚴にして迫力のある読経・法



鬼子母神祈願法要

平成27年10月28日(水)

鬼子母神像2体を併せてお祀り

子

供の健やかな成長、家内安全、子母神祈願法要が執り行われました。法要に先立ち、安本利正ご住職様から、「本日は2体の鬼子母神様をお飾りしました。一番高い所にあるのが、日蓮様が本山に持つてこられたもので、その下はレプリカです。日蓮様は旅の際に鬼子母神像を持ち歩くものですから、いつ壊れてもいようにレプリカを1体作っておかれました。今日は一緒に祀りました」とお話がありました。

法要には一時期行方不明だった鬼子母神像の御帰山に寄与された岸本家の皆様、池上本門寺から厳定院様をお迎えし、終了後、御札が全員に配られました。



萬福寺の公式ホームページをご覧ください。

馬込萬福寺

検索

<http://www.manpukuji.or.jp>

萬福寺の行事はどなたでも参加できます。

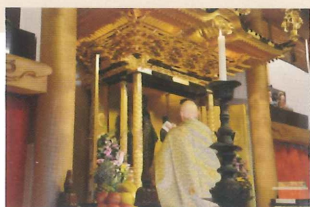
INFORMATION

仏事のご案内 ご近所お誘い合わせのうえ、ご参詣ください

12.14 本尊阿弥陀如来三尊仏の
沐浴式・御開帳

午前11時から

本尊阿弥陀如来三尊仏お身拭いの儀式を行います。ご供養された浄巾(タオル)が参詣者に配られます。(御本尊の御開帳)



2.15 涅槃会法要

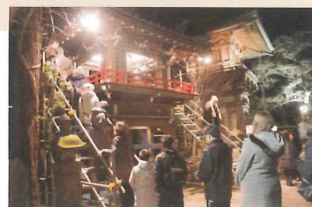
午前11時から

この日はお釈迦様がお亡くなりになられた日。入滅の様子が描かれた「大涅槃図(絵)」の前で法要を行います。

12.31 除夜の鐘つき・
正月大般若会御祈祷諷経

午後11時から法要

新しい年に向かい無病息災、家門繁栄を願って正月大般若会御祈祷諷経を行い、その後、除夜の鐘つきを行います。(御本尊の御開帳)
境内では甘酒やお神酒のお振る舞いも行われます。



1.2-3 正月大般若会御祈祷諷経

午前11時より

お正月のお墓参りの際、ご本尊を参拝して御札をいただきます。(御本尊の御開帳)

平成28年 年回表

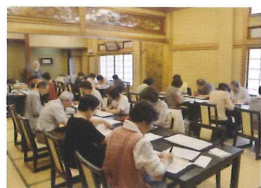
一周忌	平成二十七年
三回忌	平成二十六年
七回忌	平成二十二年
十三回忌	平成十六年
十七回忌	平成十二年
二十三回忌	平成六年
二十七回忌	平成二年
三十三回忌	昭和五十九年
三十七回忌	昭和五十五年
四十三回忌	昭和四十九年
四十七回忌	昭和四十五年
五十回忌	昭和四十二年
百回忌	大正六年

やすらぎの写経会は新春2月11日(祝・木)開催
お誘い合わせのうえご参加ください

会場: 当山客殿 (大広間・椅子席)

時間: 午後1時から3時

※「般若心経」を下敷きにして写経していただきます。



萬福寺護持会研修委員会が主催する写経会は、本年度第1回が6月20日、第2回が11月14日に行われました(写真は6月20日開催時のもの)。続いて第3回が年明け2月11日(祝日)に開催されます。この日は、今年度皆様がお書きになった写経を奉納する納経諷経も行われます。お一人でも、またはご家族、お友達お誘いのうえ、直接ご来山ください(参加費=千円、懇親会費=千円、用紙・筆無料貸し出し)。

御葬儀・法要の連絡は
萬福寺本堂総受付まで

法要は「追善法要」ともいい、故人が浄土で安楽であるようにと願いを込めて行うものです。年忌法要は葬儀とは違い予定が立てられます。できれば半年前、少なくとも3カ月前には準備を始めましょう。

御葬儀・法要・諸行事のお問い合わせ・お申し込み

萬福寺本堂総受付 ☎03-3771-2025

※梶原殿の会場使用につきましては、他社の葬儀社も利用できます。

編集後記

今年も護持会では、10月7日に日帰り研修バス旅行を実施いたしました。萬福寺とご縁が伝えられている日蓮上人の誕生寺を訪ねて、房総半島を旅しました。また、11月8日、あいにくの雨模様でしたが、萬福寺境内で「するすみ祭」が開かれました。それに先立ち、改修の終わった磨墨塚ではご住職により磨墨供養が行われました。雨天にもかかわらず、準備や進行にご尽力くださいました、JA東京中央セレモニーセンターをはじめとする関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

萬福寺の行事も着実に増加しています。多くの檀家の皆様にご参加いただきましてお互いの親睦を深め、更にお寺との絆を一層強いものにしていただきますよう切望いたします。

別冊 萬福寺だより 萬福寺住職「活動記録」

カンボジア難民救済の活動について

(元)全日本仏教会国際文化局長・曹洞宗議会議員

安本 利正 (現在 84 歳)

テレビ報道で難民の窮状を知る

1979年(昭和54年)は春から秋まで、テレビニュースによるとカンボジア難民が国境を越えてタイ国に流入し、国境近辺の山林の中に野宿する人々が数万人、十数万人の難民キャンプが存在し、西欧の医師団やキリスト教徒が救援活動を続けていた。テレビニュースでは現地の悲惨な状況を克明に映している。それを見聞きする度に日本の仏教会も何か活動しなければならぬと思っていた。

10月頃に曹洞宗青年会の全国役員会が東京で開催された。会議が終って私はそのホテルの食堂へ行った。会議に出席した青年僧が4、5人でテーブルを囲んでいたが、席に空席があつたので許可を得て同席した。青年会の活動について多くの話題が挙がったが、私はカンボジア難民の話を出して、若い人たちは現地へ行く事を考えないかどうか尋ねた。

すると「行きたくても方法がない」「青年海外協力隊のような会があれば良いが、現実には方法がない」との返事であつた。では行く方法を作れば行くかと聞いたら、是非とも参加したい、との返事であつた。

現地での救援活動の方法を模索

後日になって私は旅行社へ電話をして、バンコク市内の住宅地で約10人位が住める家の1ヶ月の借家料、乗用車1台中古車で幾らか、1ヶ月の食費等について調査して欲しいと依頼した。2、3日後に返事が来た。住宅は1ヶ月3、5万円、中古車は2、3万から5万円、食費は自炊すれば人数によって随分相違するが5千円でも1万円でも自由自在との事である。こんな調子で考えてみると、20、30万円あれば実検出来ると思った。しかし航空料金が高かった。バンコク往復約10万円である。これを自己負担してくれば実検は可能である。

タイ人やカンボジア人の中から教育者を探し出せ

ば、幼児教育が可能であろう。私は20年前に日本の農村で自動車文庫(今でいう「移動図書館」)を運営した事を思い出していた。絵本や写真集が活用出来るから蠟印紙を使うには室温を20度以下に冷房すれば可能である。私は謄写印刷が得意であり、和文タイプでも原紙1枚で1千5百枚を手刷り印刷し、蠟原紙に手書き原紙ならば2千5百枚を手刷りする技術を持っていた。そのように工夫すれば、多種多様な活動が出来るであろうと思った。

12月20日、現地調査へ20人で出発

しかし、曹洞宗として活動するにはどうすればよいか色々考えていたところ、ある時宗務庁の廊下で吉岡棟一師に出会った。早速カンボジアの話をする、吉岡師もそれを話し合おうと思っていたと返事され、色々意見を交わした上で外務省の緒方貞子氏(前特命全権大使)を呼んで多くの人達と事情を聞く事で同意した。11月27日は宗議會議員が多く集るので、外務省に相談してこの日の緒方氏の都合を伺った。27日に緒方氏の報告を聞いた上で現地調査の必要を痛感して、その実現を計画し、年末多忙であるが12月20日出発、24日帰国、5日間の現地調査を計画し参加者を募集した。宗内各機関に依頼し、20人で出発した。

不衛生極まりないキャンプのトイレ

21日には現地で3班に分かれ、政府関係、大使館と商社関係、軍隊と交通関係、それぞれ情報を集めた。22日サケオ難民キャンプに見舞い品を贈呈し、事務局の報告を聞いて各部内を視察した。

私は3万5千人が野宿する大集団のトイレが気になって場所を尋ねた。中央道の突き当りにあると言う。4、5メートル先で雑木林に突当り、道はT

字型に両側に続き、その奥に幅2メートル位の長い堀があつて長い木の板が多数堀に渡して並べてある。その板に左右の足を乗せて用便をする。悪臭芬々、蠅が粉々で不衛生極まりない。これはバキュームカーで吸い取って処理するしか方法がない。毎日吸い取れば腐敗せずに処理出来る。東京都へ頼めば何とかなるか、などと考えながら中央道を戻って歩き出すと、前から日本人らしい男が歩いて来る。声をかけたなら日本外務省の役人であつた。早速トイレの話をして戻って案内し、東京都のバキュームカーの話をしたら、帰国後東京都へ連絡してみようと言ってくれたので安心して名刺を交わし別れた。歩きながら外務省の役人と偶然に出会った事を感謝し、希望の実現を祈った。

出会った少年に将来の光明を予感

最初の事務所の近くへ戻った時、学生カバンを肩から下げた12〜13歳の男子を見た。早速カバンの中を見せてもらった。ノートが4、5冊入っている、開いてみるとクメール語で私には解らない。次に数字のノートがあつた、数式が多く書いてある。近くに通訳がいたので質問させた。

「母と姉と3人で住んでいる。母が先生を探して毎日午前中に姉と2人で勉強に通っている」と答えるのを聞いて、私は大層感激した。やはり上級の人とは普通の人とは違う、どんな不況、深刻な状況の中でも人格を高める努力を続けている。私はこの姿に接して生きる努力に感激し、幼児教育の必要性、自動車文庫の必要性を感じ将来の光明を予感した。この難民調査では多くの調査が出来て、将来は自動車文庫の活用が出来そうだと自分一人で想像し、その必要性を強く感じた。

東京都、外務省と協力し

バキュームカーとゴミ処理車を寄贈

正月を越えて1月19日に曹洞宗東南アジア難民救済

済会議が発会し、全国募金を財源として活動する事になった。吉岡棟一師が会長を務め、私が事務局長を務め、宗務庁職員の石川徹君が実務を総括する事になった。

1月25日外務省から電話が来た。バキュームカーの事を東京都へ頼んだら大層喜んで協力してくれる事になり、「話をしているうちにゴミ処理車も一台用意する事になりました」と報告があつて私も大変嬉しかった。今後外務省では事務手続きや、東京都と曹洞宗との連絡や書類の作成を担当するので、曹洞宗では輸送費を出して欲しいとの事であつた。私は勿論賛成し承諾して今後の進行を待った。

3月17日外務省から電話、バキュームカーとゴミ処理車が完成したので車のボディに「難民救済のために寄贈する、日本国外務省、東京都庁、曹洞宗難民救済会議」の名称を連記したいとの事であつた。勿論賛成して記載を依頼した。更に東京都では、この仕事は良い仕事であるから、以後毎月続けて3回、合計6台を贈呈したいとの意見であつたと報告を受け、有難く御礼申し上げ、今後の三者相互への連絡



バキュームカーとゴミ処理車をタイの難民キャンプへ輸送のため横浜港で積み込み確認中の私（左の黒衣）。バキュームカー、ゴミ処理車の運搬費、通関税、雑費、合わせて616,876円

をよろしく頼んだ。

3月26日横浜港で車の積み込みの通知が来たので、当日私が横浜港へ行き、積み込み作業を確認し、バンコク事務所へ電話をして、2台の車を輸送したので、港へ到着の連絡があつたら港から大使館までの移動を依頼した。私は4月15日バンコクへ行ったので日本大使館を訪問して大使館の庭に置かれた2台の車を確認し、タイ国政府へ贈呈して欲しいと依頼した。

東京都議会議員から横やり

帰国して間もなく外務省から電話が来た。東京都議会議員がバンコク日本大使館へ来て2台の車を見て外務省、東京都に並んで曹洞宗と書いてあるのは政教分離の法律に違反した行為であると言つて来て、上司が謝罪して文字を消す事を約束したので、文字を消して欲しいとの事であつた。私は何が法律違反であるか、三者が共同して平和運動のために活用して欲しいので寄贈したのであり、宗教行事を実施した事は無いし曹洞宗の私の発言に外務省も東京都も賛同して実施した行為であつて、政教分離の法律に触れる点は何もない、その都議会議員に対して反論出来ないのか、私は承知出来ないで消す事には反対であると返事をしたら、上司が謝って消す事を約束してしまつたので了解して欲しいと言う。東京都でもその都議会議員の主張に謝罪して文字を消す事を約束したらしいとの事であつた。

私は承知出来ないで消さない、その都議会議員が私に言つて来ないので、更に承知出来ないで返事をした。念のために「六法全書」と「信仰の自由と政教分離について」の解説本を読んだが、2台の車の寄付行為には法律違反の点は無かった。この都議会議員は無理矢理に主張して点数を稼いでいるのである。この都議会議員の行為によって救援活動を邪魔されて、今後続けて贈呈する3回6台の車の救援が出来なくなつてしまつた。私には大層不満である。この不人情な慈悲心のない都議会議員の行動を

萬福寺住職「活動記録」

カンボジア難民救済の活動について

文書にして、東京都知事に質問状を書きたくなり、六法全書や解説書を読み直してみたが、今の私には救済事業が山積しており、余分な時間が全くない。都議会議員に邪魔をされて悔しいが、そんな事を考える時間よりボランティア活動の事を心配する事が肝要であると自分の心を置き変えた。

外務大臣から感謝状届く

その時に外務省からの感謝状が私の所へ届いた。

「感謝状、曹洞宗東南アジア難民救済会議殿、貴会がインドシナ難民救済の為寄付を通して同難民救済に大きく貢献されました。よってその功績を称えここに感謝の意を表します。昭和55年4月16日、外務大臣 大来佐武郎(印)」

外務大臣が我々の救済活動を正しく評価してくれて大層嬉しかった。この2台の車の贈呈が曹洞宗難民救済の最初の大事業であった。しかし更に嬉しかった事は、バキュームカーの担当者がゴミ処理車を追加してくれ、更に3回続けようと言って奉仕の大慈悲心を頂戴した事である。途中で邪魔が入って続かなくて残念であったが、御協力に感謝申し上げている。私には救済事業が待っているの、妨害行為は忘れて救済事業に奔走した。

活動内容を国内・外の報道機関が放映

1月19日発会して以来、まず募金対策、百万枚の封筒印刷、それを全国寺院へ配布して募金依頼し、2月4日、第二次調査団を出して慰問品贈呈、自動車文庫の実用性の調査、児童教育の実現性など広範な調査を依頼した。2月24日、第一次ボランティア8人を派遣し、日本の小学生の図画450枚を持参、展覧会を開き、机を並べて大量の画用紙、クレヨン、児童に渡して絵を描かせた。児童は文字を書けないので、絵を受け取る人に絵の筆者名、年齢、性別を書かせて集めた。3月1日、帰国ボランティアが550枚の難民児童画を持ち帰った。それを最

も驚いたのはNHKであった。これまでテレビ放送に10枚の難民図画で放送していたので、550枚の中から選別して3月18日「600こちら情報部」で全国放送をした。

4月14日、第三次調査団を出した。16日カオイダン難民キャンプで平和祈念大会が準備されていた。10万人の難民を舞台の前面に集め並べるのに早朝から昼12時まで掛かった。開会の言葉に続いて、吉岡会長が挨拶して曹洞宗の活動を報告した。

この行事をアメリカのABC放送のテレビカメラが取材をして、世界各国のテレビ会社へ売り、大好評で世界中へニュースが放映された。日本では4月19日夜7時のNHKニュースで放送され、私の父母は夕食後にテレビニュースを見ていたら、まず私の顔が大写しで放映された。続いて式典の様子や難民の大群衆が放送された事を私は後日になって父母から聞いた。4、5日後には台湾から手紙が届けられ、テレビで見たので応援するとのこと。10日間位の間に7通の手紙が来て、その中にはテレビ映像の写真正が入っていた。後日になってどうして写真正が撮れたのか尋ねたら、息子がテレビ放送の職業で、電話でニュースの写真を欲しいと言ったら翌日写真を届けてくれた、との事であった。フランスからも応援の手紙が来た。

識字率向上を目指し
移動図書館稼働に奔走

5月になるとアメリカ開教師の松永然道師が帰国するニュースが入った。私は「しめた」と思った。若者ボランティアの中に指導者が必要で、早くから探していたが居ない。仕方なく山口県の有馬実成師に時々現地に行つて指導に当たってもらっていた。松永師が手伝えば鬼に金棒である。有馬師と共に松永師を説得して5月26日から6月8日まで2人を現地へ派遣した。私の思いは大成で8月から現地駐在の指導者として活躍してくれた。

5月26日から31日まで池袋のサンシャインビルで

「自立の道を目指して」と題して難民絵画を展示した。これもNHKテレビで全国放送された。戦乱で7、8年前から教育を受けていないので、年齢に応じた進歩が無い。5、6歳の子どもと12、13歳の子供の進歩が見えない。この絵を分析すると無教育の恐ろしさを痛感し、移動図書館で識字教育を如何に実行するか、難題に恐怖感が走った。展示会が終ると1メートル四方のパネルに5、6枚の絵を貼り、説明を付けて細長い角材で足を付け、並べて展示出来るよう10枚組や20枚組を作つて、全国各地に巡回展示をした。

2月以降から日本語、タイ語の本をクメール語に翻訳して増刷した。私は東京渋谷の童話専門書店で幼児本を見た。文字の無い絵本や写真集が大量に存在し、これはそのまま利用出来る、漫画本は丸の中に言葉が書いてあるので、それをクメール語に翻訳して丸の中へ貼り付けると改造本が出来ると気付いた。早速クメール語翻訳者を探して貼り付け本を作り、出版社の許可を得て改造本の製作が始まった。

現地では難民キャンプの中に難民ボランティアの作業所を設けて印刷活動を開始した。すると難民の中から画家と作家が現れて来た。伝説物語を作文し、画家が挿絵を描いて物語集が難民キャンプの中から発行された。約2ヶ月後にアメリカから難民発行の物語集の注文が来て、世界の情報伝達の機敏さに驚いた。

こうして多種多様な作業が続いた。スライドも30本位用意し、アンコールワットの写真集を複写してスライドを作ったり、際限の無い作業の集積によって2台の移動図書館が完成した。

赤痢に罹患、一時帰国し国際電話で指示

移動図書館の完成とは、車と図書と其の他の教材が揃った事であり、今後はこれらの材料を如何にして活用するか、それをカンボジア人に如何に伝導するか、これらが本番である。現地人の中から指導

力のある人物を発掘して、図書館の運用を手伝わせながら指導者としての能力を養成する事が大切である。

それらの諸問題の調査のために私は6月10日にタイ国へ行き、移動図書館の現況を調べ、サケオ新事務所の内容を視察し、サケオ難民キャンプの小学校を見学したが、18日に難民キャンプで食べた食事に異常を感じたため、急遽バンコクへ移動し、台湾経由で帰国する事になった。夕刻台湾へ着き、電話で内政部長に面会を予約していたので政府へ行ったが、体調が不良のため医務室へ行くと危険を宣告され、赤痢のおそれ有りとのこと。至急日本へ帰るため、外事警察署長に頼んで成田行きの夜行便を申込み、深夜便の座席4席に横になり毛布を重ねて高熱に苦しみながら12時過ぎに成田へ着いた。

早速医務室へ行った。体温42度、危険。神奈川県庁へ連絡をしたので、その指示に従って動くよう言われ、救急車で休みながら秦野へ帰った。朝、県庁から電話で小田原日赤病院へ行くよう指示され、小田原で注射2本、激痛に耐えながら休む。厚木日赤病院へ移動され、隔離病棟へ入れられた。

1日深寝、2日目は楽になった。廊下に在る電話を病室へ移動させて、バンコク事務所へ電話をして現況を聞いて指導する。毎日隔離病棟から国際電話を掛けている事が病院中で有名になった。医師から注意されたが、難民救済の仕事の電話であり、現地の実情も交えて報告をしたら、入院期間を短縮して16日間を10日に変更してくれた。私の入院の事は、今後のボランティア活動の中で保健意識の高揚に役立てたいと思った。

難民キャンプへ移動図書館が到着

7月にタイ国小学校で図書館車の試験活動をして準備した。小学生の人氣が集中して、タイ人が説明に大変であった。2、3日後にサケオ難民キャンプへ移動図書館が到着した。大勢の子供に囲まれた2台の図書館車は動く事も出来ない。子供達は輝くよ

うな笑顔で集まった。写真集に子供達の人氣が集中した。説明文は読めなくても、カンボジア文化の中で育った児童達は写真を見ると昔を想い出すのであろう、涙を拭きながら写真集をめくっている。その少女は真剣そのもの、無我夢中である。

ボランティア達はその大衆を整理するのに苦心した。タイ人のボランティアが大層活躍してくれた。子供達の人氣の高さを見ると今後の活動が心配になった。やがてカンボジア人のボランティアも出現し良い活動をして指導に活躍してくれた。

ボランティア会へ事業を引き継ぐ

1981年(昭和56年)春になると、東京本部の中から難民救済会議は2年間の活動であるから、何時まで続ける、との意見が時々耳に入ってきた。しかし現況は整理と編成を充実中である。現地の活動は熱心で、特に最近では騰写版の実演に人氣が高まり、実演指導の人氣が高い。今書いた文字や絵画が即座に印刷出来て驚きの評判である。各市の学校へ役人まで集めて実習である。やがてラオスからも招聘されるようになった。

6月になると本会の終結準備をすべきだ、の意見が次第に強くなって来た。そこでボランティアの初期から指導して来た有馬師と現地指導者の松永師の意見を交渉して、救済事業を引き継ぐ方法を考慮した。熱心なボランティアを集めて内々に相談して、従来の難民救済会議の事業を引き継ぐ団体としてボランティア会の結成の計画を考案してくれた。9月末にはボランティア会の会則案を作成して、組織体制の討議を重ねて、積極的に計画を進行してくれた。流石に熟練したボランティアの集団であって、難民救済会議の複雑な内情をも観察して計画を進め、1981年(昭和56年)12月10日を以って曹洞宗東南アジア難民救済会議から曹洞宗ボランティア会へ事業を引き継ぐ事に決定した。しかし実務は明年3月まで共同で実行し、順次に引き継ぎ作業を完了する事に決定した。

日本第一のボランティア組織に発展成長

その後1997年(平成9年)前会会長の吉岡棟一師が84歳で急逝され、3年後2000年(平成12年)には現地で大活躍された有馬実成師が64歳で逝去され全国の会員から惜しまれました。1981年(昭和56年)12月10日曹洞宗ボランティア会を結成して以来会長を務め、今は引退している松永然道師は、本会会長と永平寺国際部長を兼任し、多忙にて発病され、以後退役されて静岡の御自坊で御静養中でありま。1935年(昭和10年)生れ80歳です。昔の人生50年は今では百年になって来ました。松永老師の長寿を祈ります。

最近、私の友人がカンボジア観光団に参加した時に、カンボジア人の通訳が「難民キャンプで日本のボランティア活動を手伝いながら日本語を学習し、現在は観光団の通訳として活動している」と、日本の活動に感謝していた、と報告があった。曹洞宗の活動が意外なところで生きて、活躍している事を知った。

その後2010年(平成22年)3月26日に公益法人シャントイ国際ボランティア会(SVA)と改名し、その後社団法人格を取得するため2011年(平成23年)3月26日に公益社団法人シャントイ国際ボランティア会と改称し、現在では日本第一のボランティア組織に発展成長している。このボランティア会は最初から現在まで、多くの優れた人材の集団であった。各自が事業を開発し工夫して努力を重ね発展成長を続けている。私は多くの理解ある人々の御協力に感謝し厚く御礼申し上げ、今後の発展を祈念しています。

〔2015年(平成27年)10月筆〕